



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月14日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	19,068		153		109		57	
2021年3月期第3四半期	19,668		74		1		25	

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 157百万円 (%) 2021年3月期第3四半期 286百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	17.23	
2021年3月期第3四半期	7.61	

(注) 第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結経営成績は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	16,209	4,191	25.9
2021年3月期	15,853	4,348	27.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 4,190百万円 2021年3月期 4,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,200		200		150		15		4.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前期増減率は記載していません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	3,400,000 株	2021年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	63,010 株	2021年3月期	62,932 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	3,336,990 株	2021年3月期3Q	3,337,068 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第3四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明の売上高については、増減額及び前年同期比（%）を記載せずに説明しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

（1）経営成績に関する説明

第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態制限やまん延防止等重点措置が半年の間継続されるなど、経済活動に制限のかかる状況が続きました。ワクチン接種の進展とともに感染者数の減少が顕著となる中、10月以降の緊急事態宣言の解除により経済・生産活動の持ち直しに期待が高まりつつあるものの、新たな変異株による感染拡大の懸念もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、新型コロナウイルス感染症長期化の影響により、内食化が堅調に推移したものの、先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や原材料価格の上昇、さらには原油価格の高騰に起因する動力費及び包装材料価格の上昇もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を2年目とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」において、「消費者ニーズにあった新たな商品開発と販売戦略の構築と実行」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症長期化により、消費者の食に関するライフスタイルの変容や消費行動は多様化し、様々な需要に対応するため、家庭内での消費に対応した商品展開や新商品の開発、さらには既存商品のブラッシュアップと拡販に取り組んでまいりました。

ギフト販売につきましては、お中元・お歳暮といったフォーマルギフトからカジュアルギフトにシフトチェンジし、市場全体が縮小傾向にある中、当社グループは、主力商品の「ロマンティック街道」シリーズやコロナ禍における内食需要の高まりからご家庭で簡単に調理可能な「デリカセット」など新たに発売し、新規顧客獲得に向け取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、190億68百万円（前年同四半期は196億68百万円）となりました。利益につきましては、営業損失は1億53百万円（前年同四半期は営業損失74百万円）、経常損失は1億9百万円（前年同四半期は経常損失1百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は固定資産売却益を1億86百万円計上したことにより57百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は4億26百万円減少しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、既存商品をブラッシュアップした環境にやさしいエコトレイ使用の「野菜といっしょにシリーズ」の「うす切りパストラミハム」や豚肩ロース肉を使用した厚切りステーキタイプの「ハムステーキ」、昨年販売した「あらびきKING」の新シリーズ「あらびきKING レモン&パセリ」、「肉厚ハンバーグ」シリーズ等が堅調に推移いたしました。しかしながら、昨年のコロナ禍により伸長した巣ごもり消費や内食需要の反動でインストア商材等の販売の減少やギフト販売における市場全体の低迷、さらには収益認識会計基準の適用等により売上高、利益とも減少いたしました。

その結果、売上高は83億87百万円（前年同四半期は89億88百万円）、セグメント利益（営業利益）は2億80百万円（前年同四半期比41.9%減）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は2億2百万円減少しております。

食肉事業

食肉事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の長期化等の影響により外食需要は引き続き厳しさを極めるなか、国産豚肉の「八女もち豚」や輸入豚肉の「大麦仕上三元豚」を中心としたブランド商品提案を強化してまいりました。売上高につきましては、国産牛肉は出荷頭数の減少により高値で推移し、売上高は増加したものの、国産豚肉は、前年同四半期に比べ内食需要の高まりが落ち着いた事や夏季における発育不良に伴い出荷頭数が減ったことにより売上高は減少いたしました。輸入牛肉、輸入豚肉は海外のコンテナや大雨の影響による入

船遅れがあったものの販売単価の上昇や北米産ビーフ等が売上を伸ばしたことなどにより、食肉事業全体の売上高は増加いたしました。利益につきましては、採算重視の販売に努めたことや仕入れの見直し、在庫の適正管理による余剰在庫の削減、さらには物流費等のコスト削減努力により前年同四半期を上回りました。

その結果、売上高は106億81百万円（前年同四半期は106億80百万円）、セグメント損失（営業損失）は22百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）1億44百万円）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高は2億23百万円減少しております。

（2）財政状態に関する説明

（資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億56百万円増加の162億9百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ8億38百万円増加の71億28百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金12億38百万円の増加と現金及び預金4億78百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ4億81百万円減少の90億81百万円となりました。主な要因は、投資有価証券3億13百万円、土地79百万円及び機械装置及び運搬具42百万円の減少によるものであります。

（負債の部）

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ5億14百万円増加の120億18百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ9億16百万円増加の79億24百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金4億70百万円と短期借入金3億85百万円の増加によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ4億2百万円減少の40億93百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億70百万円、退職給付に係る負債1億7百万円及びその他固定負債1億35百万円の減少によるものであります。

（純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億57百万円減少の41億91百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金2億26百万円の減少によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2021年11月11日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,635	2,156
受取手形及び売掛金	2,443	3,682
商品及び製品	932	921
仕掛品	45	35
原材料及び貯蔵品	203	285
その他	30	48
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,290	7,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,792	2,788
機械装置及び運搬具（純額）	884	842
土地	3,003	2,924
リース資産（純額）	157	118
建設仮勘定	11	-
その他	50	72
有形固定資産合計	6,900	6,747
無形固定資産	142	129
投資その他の資産		
投資有価証券	2,305	1,992
その他	365	362
貸倒引当金	△152	△148
投資その他の資産合計	2,519	2,205
固定資産合計	9,563	9,081
資産合計	15,853	16,209

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,074	2,545
短期借入金	4,094	4,479
未払法人税等	41	31
賞与引当金	159	77
その他	638	790
流動負債合計	7,008	7,924
固定負債		
長期借入金	2,033	1,862
役員退職慰労引当金	324	336
退職給付に係る負債	1,614	1,506
その他	524	388
固定負債合計	4,495	4,093
負債合計	11,504	12,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△538	△481
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,575	3,633
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	788	561
退職給付に係る調整累計額	△16	△4
その他の包括利益累計額合計	772	557
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,348	4,191
負債純資産合計	15,853	16,209

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	19,668	19,068
売上原価	16,161	16,036
売上総利益	3,506	3,031
販売費及び一般管理費	3,580	3,185
営業損失(△)	△74	△153
営業外収益		
受取利息及び配当金	42	44
不動産賃貸料	44	41
補助金収入	44	-
その他	16	32
営業外収益合計	148	118
営業外費用		
支払利息	49	50
不動産賃貸費用	21	20
その他	4	3
営業外費用合計	75	74
経常損失(△)	△1	△109
特別利益		
固定資産売却益	-	186
特別利益合計	-	186
特別損失		
減損損失	4	-
特別損失合計	4	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△6	77
法人税、住民税及び事業税	19	19
法人税等合計	19	19
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△25	57
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△25	57

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△25	57
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	295	△226
退職給付に係る調整額	17	11
その他の包括利益合計	312	△214
四半期包括利益	286	△157
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	286	△157
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来、顧客に支払われる対価の一部を販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、これら顧客に支払われる対価は売上高から控除して表示しております。また、有償支給取引については、従来は支給先から受け取る対価を収益として認識しておりましたが、当該収益を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4億26百万円減少し、売上原価は82百万円、販売費及び一般管理費は3億44百万円それぞれ減少いたしました。また、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純利益に影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

2. 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,988	10,680	19,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,988	10,680	19,668
セグメント利益又は損失(△)	483	△144	339

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	339
全社費用(注)	△413
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△74

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,387	10,681	19,068
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,387	10,681	19,068
セグメント利益又は損失(△)	280	△22	258

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	258
全社費用(注)	△412
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△153

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に変更しております。利益又は損失については変更ありません。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「加工食品事業」の売上高は2億2百万円減少し、「食肉事業」の売上高は2億23百万円減少しております。